

令和6年度都立看護専門学校社会人入学試験小論文課題

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

「殻をかぶった自我」には、本当の「出会い」はありません。 本当の、というのがおかしいなら、「生き生きとした」ひととひととの出会い、ひとと自然との出会いといってもよいでしょう。

「殻をかぶった自我」の得意技は「抜け駆け」です。ひとよりもいいことをしたい、自然を利用して自分のために役立てたい。その結果、ひとも自然も自分が操作して最大限の利益を引き出すための対象にしかすぎなくなります。それは潜在的な「敵」であり、気を許すことのできないものになります。そうして、自分の幸せを得ようと「抜け駆け」しようとすることで、結局私たちは「生き生き」の湧きだす源を止めてしまうのです。

「殻をかぶった自我」の殻が破られたとき、そこに現れるのは「生命的自己」、「いのち」としての私です。外側からの殻によってではなく、内側からのいのちの力によって支えられている「私」です。

そしてそこには「つながり」の感覚、「ネットワーク感覚」ともいべき新たな感覚が生まれてきます。私たちが知らず知らずのうちに「敵」だと思いこんでいたひとや自然は、実は私たちと深くつながりあっているのではないか、私たちはそのネットワークに支えられて生きているのではないか、そんな感覚です。

殻に閉じこめられ、萎縮して生命力を失っている自分に代わって、広がりのある、のびのびとした自分が現れ、敵に代わって、つながりあい、ともに生きている仲間の姿が見えてくるのです。そしてそんなネットワークの中の自分、仲間が見えてくるときに、私たちは生き生きと輝きだすのです。

(中略)

「殻をかぶった自我」は「自分だけの幸せ」を追い求めます。その幸せは常に限りがあります。そして限られた幸せの奪い合いを常にしています。けれども、そこには気づかれていない単純な事実があるのです。

それは、仲間の幸せをわがことのように喜べるならば、私たちの幸せは無限であるということです。仲間の喜んだ顔を見、仲間が生き生きしているのを感じ、自分も生き生きしてうれしくなるような「開かれた」私にとっての幸せは限りがないのです。

出典：上田紀行著（2022）「覚醒のネットワーク」

KTC中央出版

(設問)

著者が伝えたいことを240字程度に要約した上で、課題文の下線部について、経験を踏まえたあなたの考えを、要約を含めて1,200字程度で述べなさい。